

2021 年度 ESD/SDGs 実践記録

1 実施校、対象 (学年、人数) 山ノ内町立南小学校 6 学年 16 名

2 探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

- (1) テーマ 「川の上流部の学校で考える、つなげる「きれいな志賀高原の水」
- (2) 目標 ①志賀高原の水の状況を知り、水の価値について考えを深める。
②他地域との交流から、山ノ内町を見つめ直す。
- (3) ねらい 「水」に対する価値観の変容を促し、それを広げる行動を起こす。
- (4) ESD の視点、育成する資質・能力



- ①構成概念・・・相互性 「きれいな水を守るためには、森、ゴミ問題など様々なことが関連する」
責任性 「何もしなければ、下流部にも未来にもきれいな水をつなげられない」
公平性 「みなぎ水の恩恵を受けることができる社会をつくる」
有限性 「水不足の問題が現実としてあるように、きれいな水は限りある資源だ」
連携性 「きれいな水をつなぐためには、多くの人との協働が必要だ」

②資質・能力・・・未来像を予測して計画を立てる力

多面的・総合的に考える力

つながりを尊重する態度 (色々なものや人のお陰で自分がいることを感じる。)

(5) 関連する SDGs 6 安全な水とトイレを世界に 11 住み続けられる町づくり 14 海の豊かさを守ろう

(6) 探求課題・活動実践の概要

① 世界で起きている問題を知ろう (バトンタッチ SDGs 視聴)

- ・砂漠化 ・森林伐採 ・人口爆発 (日本は人口減少、高齢化社会) ・異常気象
- ・海洋プラスチックゴミ ・移民 ・人種差別 ・水不足 (信大 COI の訪問)

② 修学旅行での学習

- ・氷見海浜植物園の方との学習。(海岸で海洋ゴミの実態を調べる)
- ・大町市 SDGs 共創推進係との学習。大町市の水の政策や源流部としての取組を知る。

③ 様々な場所での水質調査

- ・校内の池、理科室の水槽、生活排水、近隣の三沢川・伊沢川などでの水質調査の実施。志賀高原の源流部での水質調査の実施。

④ 交流と発信

- ・山ノ内町の政策の理解・総合計画についてのお話 (行政の方との交流)、奈良県川上村「森と水の源流館」の方による川上村の取組の紹介、飯田市「天竜川総合学習館」の方による中流域での水を守る活動の紹介、やまのうち ESD 交流会での町内の 6 年生同士の発表と地域の人との懇談など。

3 流れ (指導計画の概略) (数字は実際に使った時数)

4 月 米作りのふり返り① 番組視聴② SDGs 調べ学習②

5 月 信大 COI 調べ学習③ 信大 COI 訪問④ パックテスト (学校の池など) ②

6 月 パックテスト (生活排水、三沢川など) ③ 修学旅行 (氷見・大町) ⑫ ゴミ仕分け②

7・8 月 修学旅行のまとめと発表の準備⑤ 校内発表①

9 月 志賀高原源泉調査③ 町の計画調べ① 奈良県川上村についての調べ学習④ パックテスト (戸狩・上林=ESD 体験学習) ②

10 月 奈良県川上村との交流① 天竜川総合学習館の調べ学習と交流③ これまでの学習のまとめと整理⑤

11 月 やまのうち ESD 交流会と校内発表⑤

12 月 My 水きれい宣言の作成

1~3 月 松本市の学校との交流 信州 ESD 成果発表交流会

他教科との関連: 国語「今わたしたちにできること」 社会「世界の中の日本」 図工「ふるさと自慢」など

4 効果、反応、所感

「志賀高原の水はきれいだと思う」「おいしい水はどこにでもある」という感覚だった子どもたち。しかし、上にあげたような学習を通して、「本当に志賀高原の水はきれいなんだ。(数値による科学的な根拠をもつ)」、「きれいな水は貴重だ」、「きれいな水をつなぐには、何かをしなくちゃいけない」という意識の変化があった。また、「役場に〜してほしい」から「自分たちも含めた住民の意識が高まらないと何も変わらない」ということに気がつくことができた。これは主体性と参画に関する当事者意識の変化と考えられる。

5 指導方法、体制の工夫 (協力者や資源)

- ① 養田 武さん (山ノ内町役場) ② 氷見海浜植物園の井出さん
- ③ 信州大学教育学部 水谷瑞希先生 ④ 奈良教育大学 中澤静男先生 大西浩明先生
- ⑤ 奈良県川上村森と水の源流館 尾上忠大さん
- ⑥ 飯田市天竜川総合学習館かわらんべ 久保田さん ⑦ 奈良県川上村役場 加藤さん
- ⑧ 大町市役所企画調整係 SDGs 共創推進係 下川さん ⑨ ACCU ユネスコアジア文化センター